

第1回 まちづくり市民協議会会議録

日時：令和2年8月20日（木）18時30分～

会場：あいぱーく光 いきいきホール

出席者 委員 37人（欠席3人）
事務局 6人

1 委嘱状交付

出席者を代表して足立典子氏に市長が委嘱状を交付

2 市長あいさつ

大変暑い中、大勢の皆様にお集まりいただき、心から御礼申しあげる。

また、皆様におかれては、快く協議会委員を引き受けていただき、重ねて御礼を申しあげる。

さて、この協議会の大きな目的は、皆様から市政に対して大所高所からご意見をもらうことと、総合計画に対するご支援をいただくことである。現在、第2次総合計画は進行中であり、令和3年度に計画期間が満了となる。このため、私たちは次期総合計画の策定に着手をしている。総合計画と聞くと、難しそうなものだと感じるかもしれないが、私たちの総合計画とは、理想の社会・理想のまちをイメージし、そこに到達しようとする手法を描くものである。

総合計画が目指す理想のまちとはどのようなものか。それは、光市民憲章である。「ふるさとの自然を愛し 花と緑の豊かなまちをつくりましょう」自然を愛する社会、自然を愛するまち、そして、花と緑が美しいまち。これが理想の一つの姿であり、市民憲章には、こうした理想の姿が5つ掲げられている。

こうした理想を重点化したのが、3つの都市宣言である。「おっばい都市宣言」、「自然敬愛都市宣言」、「安全・安心都市宣言」。「おっばい都市宣言」とは、子どもたちだけの目標ではなく、大人も含めて、全ての人が自己学習を通して自分を高めていく、人が輝くまちを目指すもの。「自然敬愛都市宣言」は、山口県下において、光市は自然が非常にゆたかであると言われるが、こうした自然に人の手を入れながら、自然が輝くまちを目指すもの。3つ目の「安全・安心都市宣言」は、非常に重要になってきた。自然災害が多発しており、平成30年7月には、光市も豪雨によって被害を受けた。今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大についても、私たちが安全・安心に過ごすためにはどうしたらよいか、「安全・安心都市宣言」に関わるどこかに書き込まなければならない。

私たちは、第2次総合計画をこうした考えのもと策定したわけだが、第3次総合計画においては、社会が動いているからこそ、皆様方の新しい知見や新しい物の見方を、協

議会でご教示いただき、新しい時代の新しい光市のいわば憲法をつくることが、私たちと、この協議会の役割となる。

ぜひ、皆様方の忌憚のない意見を伺い、素晴らしいまちとなるような実効性のある計画を立てたい。総合計画は各分野の施策に繋がるため、皆様の忌憚のない意見をお願いし、私からのご挨拶とさせていただきます。

3 委員紹介

事務局による各委員の紹介と事務局の紹介

4 会長・副会長選出

事務局案を求める声があったため、事務局案を示し、同意多数により決定

会長 上田 博幸 氏（光市ボランティア連絡協議会会長）

副会長 天野 加代子 氏（光市食生活改善推進協議会会長）

5 会長あいさつ

私たちは、これからお互いに議論を行い、建設的に意見を集め、行政とともに、よりよい光市を作っていきたい。今回の協議会は、公募委員が12名となり、3分の1を占める。つまり、やる気のある人が集まった協議会である。私は、これまでも協議会委員として関わってきたが、未だに分からない部分があるため、もっと勉強しながら協議会に臨みたい。よいまちを作るために、建設的な議論を重ねていきたい。協議会37名の意見を練り上げ、よりよい光市をつくるため、皆様のご協力をいただきたい。

6 議題

(1) 光市まちづくり市民協議会について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等
→意見なし

(2) 光市のまちづくりと第2次光市総合計画について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

質問だが、20年後の目指す将来像を一言で表すと、どういうものか。将来像が見えない。まちの課題はたくさんあるが、全部の課題を協議会で考えるのは不親切ではないか。光市がもつ夢や方向性を市民や産業界が感じられるようなイメージをもっているのか疑問である。

●事務局

これまでは「ゆたかな社会」を目指すべき将来像として、まちづくりを進めている。20年後のより良い光市に向けて、委員の皆様とともに、光市の住みよい将来像を議論してまいりたい。

●委員

これまでも将来像のイメージの候補があったと思うが、それも見えてこない気がする。市民や産業界をひとつにまとめて動かそうと思うと、ビジョン、キャッチフレーズが必要。色んな人に意見を聞くことは大事だが、市の方からこれでいくんだという宣言、キャッチフレーズが欲しい。これからは、そういうものが一番大事だと思う。市と市民が協力して立派な計画をつくるためには、市民の協力が必要であって、まちの人々や産業界の団体が異口同音にイメージを語るような姿にする必要があると思うが、そうはなっていない気がする。

●事務局

ビジョンについては、これまでの総合計画でお示してきた経緯がある。光市は、「自然敬愛都市宣言」にもみられるように、自然がゆたかであるという自負もあり、以前は、「人と自然がきらめく生活創造都市」というビジョンを掲げていたこともある。現在であれば、総合計画概要版の表紙にもあるように、「ゆたかな社会～やさしさひろがる 幸せ実感都市 ひかり～」をビジョンに20年後を見据えたまちづくりをしている。

「ゆたかな社会」の捉えようは、人それぞれあるかと思うが、市民一人ひとりが幸せを実感できて、あらゆるところに笑顔があふれるまちを目指すのが、現在のビジョンである。

(3) 第3次光市総合計画の策定について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

事務局の説明によって、第3次光市総合計画の目的や狙いが見えた。

これまでも、協議会委員として参画してきたが、先ほど、他の委員からの指摘もあったが、総合計画においては、これといったキーワード、キャッチコピーが十分ではなかった気がする。協議会の議論では、指標の評価といった細かな戦術と大きな戦略が混ざり合うこともあり、協議会の場で何がしたいのか複雑になっていたとの感触もある。これらを整理するだけでも、これからやりたいことが見えてくるのではないかと。

協議会には多くの委員がいる。今回、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、自己紹介がなかったため、今のところ、各委員の専門分野が分からない。総合計画の策定にあたり、専門意見を取り入れていくのであれば、専門意見を共有できるような場や機会をもつべきだと感じる。委員が自由な会話をする機会を設けるだけでも、議論は全く変わっていくものだと思う。

私には仕事や仕事以外での得意分野があり、こうした得意分野をお互いに他の委員と情報共有することで、いいものができると思う。

●委員

次回までに各委員の得意分野などの情報共有ができればと思う。

●委員

市として、どういう専門分野の人を、どの様に活用していこうとしているのか、次回にでも聞かせていただきたい。

21世紀の基幹産業は観光だと言われている。観光戦略を一つの目玉とすることが大きなテーマだと思っている。その点についての考えも聞いてみたい。伊藤公以外の話も聞いてみたい。

●委員

冠山総合公園のビジョンなども話があってもよかったと思う。

●事務局

本日は、市からの一方的な説明となり、分かりづらい部分もあったと思う。委員の自己紹介や意思表示の機会や共有の場がなく、申し訳なかった。

協議会自体は3年間にわたり、計画策定については2年間にわたり進めていく。次回からはワークショップといって、より意見を言いやすい場を設けて、議論を進めていきたいと思う。こうした中で、委員からの積極的な意見やご提案を求めてまいりたい。こうした意見や提案を磨き上げられたものが、総合計画になると思う。

●委員

次の点を検討願いたい。資料5（第2次光市総合計画評価書案）の16ページの総括表について。総括表では、「政策」と「個別の成果指標」についての記載があり、「政策」はB評価が一番多い（37.7%）。「個別の成果指標」はD評価が一番多い（38.8%）。第3次総合計画は、第2次総合計画の結果や課題を含めて、新たな計画を策定するため、第2次総合計画の結果の分析をしっかりと行ってほしい。

例えば、B評価以上をクリアすることを最低目標とするという風に、調べた結果を載せるだけではなく、どこを目指すのかを明らかにするとよいのではないか。

また、「政策」で一番多いものがB評価なのに、「個別の成果指標」で一番多いものがD評価であるため、この点についても分析が必要ではないか。

7 その他

○ 事務局から今後の予定等について連絡

- ・ 次回開催は10月6日（火）18時30分から予定している。
- ・ 次回は、3つ程度の班に分かれた分科会形式での開催を検討している。
- ・ ご意見・ご提言は随時、事務局で受け付ける

終了 20時10分